

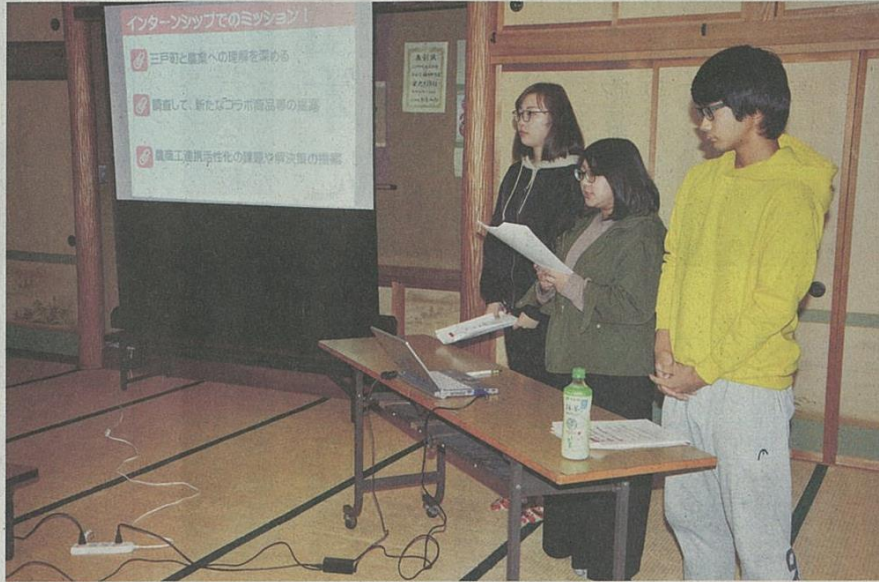
農業体験 + 食文化 = 新たな観光資源

町おこし若者の視点で

八学大インターンシップ報告会

三戸

三戸町にインターンシップに訪れた八戸学院大の学生たちによる活動報告会が1日、同町の梅内ふれあい会館で開かれた。農業体験などを通して地元の人たちと交流し、町活性化策を探った学生たちは、食文化による町おこしをキーワードに挙げた。（金澤一能）



活動報告をする八戸学院大の学生たち

同町では、まちづくり若者の視点を生かそうと、2017年度から町単独事業で大学生の職場体験を受け入れている。

本年度は、町と包括連携協定を結ぶ同大地域経営学科の1年生5人が、8月と10月に計6日間滞在し、リンゴの収穫や街歩きガイドツアーへの参加、商工業者からの聞き取りなどを行った。

報告会には5人のうち、沼田将悟さん(18)、岡村智優さん(19)、小川文香さん(19)の3人が出席。お世話になった地元の人たち約20人が見守る中、写真などで活動を振り返った。

3人は「赤くて大きなリンゴを見つけて取ったのがうれしかった。育つまでを想像したら楽しくなった」「民泊で温かく迎えてもらったのが一番の思い出」などと感想を述べた。

古くから栽培される作物ながら、人手不足などで生産が下火となっているホッポの収穫の手伝いと、それらを原料とする地ビールを味わうイベントなど、農業体験と食文化を組み合わせた観光を提案した。